

平成 30 年度 第 2 回 学術情報ネットワーク運営・連携本部会議 議事要旨 (案)

日時：平成 31 年 3 月 18 日 (月) 16:15-18:15

場所：国立情報学研究所 12F 会議室 (1208・1210 室)

出席：(敬称略)

【委員】

喜連川優(本部長)、高井昌彰(TV 会議)、曾根秀昭、田浦健次朗、和田耕一(TV 会議)、山田功(TV 会議)、相原玲二、和田智仁(TV 会議)、上田哲史(TV 会議)、真鍋篤、高田唯史(TV 会議)、石黒静児、本多英晴(代理出席、TV 会議)、岡部寿男(TV 会議)、相澤彰子、漆谷重雄、合田憲人、高倉弘喜、山地一禎

【陪席】

友石正彦(東京工業大学、TV 会議)、中村素典、計宇生、笹山浩二、明石修、阿部俊二、福田健介、栗本崇、大向一輝、山中謙次郎、江川和子、武川利代巳、溝口浩和、小野亘、吉田幸苗(国立情報学研究所)

【事務局】

樋口秀樹、土井光広、松岡喜美代、松村光、前田光教、山本一登、今井亮輔、窪田佳裕、齊藤麻友子

議事：

1. 前回議事要旨確認

本部会の終了までに、ご連絡いただくこととし、了承された。

5. 各作業部会等からの報告

5.1. ネットワーク作業部会報告

漆谷主査から、資料 6 に基づき、以下のとおり報告があった。

2018 年度の整備状況として、国際回線を日本・米国・欧州をリング状に接続し、アジアも含めてすべて 100G 回線に増強について、SINET 専用のモバイル網を SINET に接続した広域データ収集基盤における実証実験について報告し、2019 年度の整備として、広域データ収集基盤の 5G 導入に向けた取り組み、東京・大阪間の 400G 回線の導入、次期 SINET に向けたスケジュールについて議論した。また、大規模災害を想定した SINET 加入規程ならびに同細則の改定を行った。

5.2. クラウド作業部会報告

合田主査から、資料 7 に基づき、以下のとおり報告があった。

クラウドでのデータ解析環境等を構築する自動化ツールである学認クラウドオンデマンド構築サービス(10 月からサービス開始)について、学認クラウド導入支援サー

ビス等の利活用支援サービスについて報告し、クラウド利活用セミナーならびに学認クラウドオンデマンド構築サービスハンズオンセミナーの実施内容について議論した。また、クラウド活用事例（国立遺伝学研究所、群馬大学）の紹介を行った。

- ・ セミナーに参加できないことも多いため、ビデオ配信またはそれに類する予定はないか。（石黒委員）
 - 学認クラウド導入支援サービスでは過去のセミナーをオンデマンドで視聴することができる。（合田委員）

5.3. セキュリティ作業部会報告

岡部主査から、資料 8 に基づき、以下のとおり報告があった。

NII-SOCS 参加機関でクローズドに情報交換できる場の要望があり、秋の NII 学術情報基盤ミーティングに合わせ、東京と大阪会場で各 20～30 人程の機関担当者ミーティングを行った。また、攻撃のあったデータを匿名化した研究用ベンチマークデータを提供することについて検討している。

- ・ 研究データが活用されていることが分かるデータがあるとよい。（喜連川本部長）
 - 論文の謝辞に書くようお願いしているので、それを数えることは可能である。（高倉委員）

5.4. オープンサイエンス研究データ基盤作業部会報告

山地主査から、資料 9 に基づき、以下のとおり報告があった。

第 1 回本部会議で承認した本部会の活動として、2 つのサブワーキンググループ（GakuNin RDM、RDM トレーニングツール）の設置、ならびに、オープンサイエンスに係る活動について報告した。また、2018 年度までに行った研究データ管理基盤機能評価試験結果を踏まえ、2019 年度は中長期的なロングランテストを行いこと、人材育成では新教材提供に向けた活動計画について議論した。

- ・ トレーニング教材の試用プロジェクトに森永乳業が入っているはどのような経緯からか。（真鍋委員）
 - 図書系へ募集案内して応募があり、断る理由はないため受けたもの。オープンサイエンスのシンポジウム等では中小企業の参加や連絡が多くある。（山地委員）

5.5. 情報セキュリティポリシー推進部会報告

曾根主査から、資料 10 に基づき、以下のとおり報告があった。

サンプル規程集の更新と公開（統一基準改訂や、大学等における情報格付けと取扱制限のあり方等を踏まえた更新）、クラウドサービス上で要機密情報を扱う場合の取扱等を踏まえた改訂案の検討、情報セキュリティ教材の整備（ヒカリ&つばさ情報セキュリ

ティ三択教室への教材追加)等を進めている。

6. 学術認証推進室状況報告

中村特任教授から、資料 11 に基づき、以下のとおり報告があった。

認証においては RSA 暗号ライブラリの脆弱性(ROCA)の対応が約 1 年掛けて完了し、eduroam においては Configuration Assistant Tool (CAT) の提供を開始、UPKI においては電子証明書発行サービスに関し中間 CA の規制強化への対応のためサービス利用料金変更(値上げ)を引き続き検討している。

7. コンテンツ事業報告

大向准教授から、資料 12 に基づき、報告があった。

学術コンテンツ事業は、オープンサイエンスとともに、大学ならびに大学図書館等と連携し研究データを含む多様な学術コンテンツを確保・整備して提供している。今後、CAT2020 において書誌データ登録ルールの改訂に向けてマニュアル等の整備を進めている。

8. NII 学術情報基盤ミーティング 2018 実施報告

事務局から、資料 13 に基づき、報告があった。

2. 次期 SINET の検討について

喜連川本部長から、資料 3 に基づき、次期 SINET の予算方針ならびに技術的要件等の検討について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

マスタープランへ応募し日本学術会議の委員に保証していただくのが重要であり、ネットワークだけでなく研究データ基盤も含めた形をプラットフォームとし、現在 SINET とは別枠であるセキュリティを合わせて進めることとする。

4. 初等中等教育機関の SINET 利用の検討について

喜連川本部長から、資料 5 に基づき、以下のとおり報告があった。

検討を進めている段階ではある。具体的に導入することになれば、初等中等教育機関に高い IT スキルがあるとは限らないため、大学の手助けが必要になると思われる。また、何らかの作業部会が必要であり、引き続きご支援をいただきたい。

- ・ SINET が始まって以来同様の議論はあり、一部の学校で SINET を利用した中で支援を必要とした学校もあるため、地域の大学と教育委員会等と連携することが必要である。(相原委員)
 - 快適なネット環境を提供していくことが重要だと認識する。まずはモデルケースを作る必要がある。(喜連川本部長)

- ・ 情報教育やプログラム教育を行う等広く要請されているのか、ネットワークの提供に限定されているのか。（田浦委員）
 - ネットワークに限定された方針であるが、それだけでは SINET の良さを感じられないため、具体的なサービス提供を議論する必要がある。（喜連川本部長）

3. NII-SOCS の「サイバーセキュリティ協議会」への参加について

岡部委員から、資料 4 に基づき、協議会へ入会条件の元で参加することを検討した結果について説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

協議会から照会があった場合に限られた情報のみ提供し、それ以外の照会を受けた場合には、該当する参加機関の許可を得ることとする。この条件を確認するための監査役を本部委員から選出する。

- ・ 参加に異論はないが、協議会が期待する条件とミスマッチはないのか。（田浦委員）
 - 協議会の方針が未定であり、先に条件を提示することを検討した。（岡部委員）

9. その他

◆ 次期 NII-SOCS の検討状況

高倉委員から、資料 14 に基づき、報告があった。

- ・ 検知件数は増えているのか。IoT デバイスに対する新たな脅威に対応できているのか。（喜連川本部長）
 - 検知件数は 2 年前に始めてからかなり減ってきている。IoT 機器が直接 SINET につながっているケースは少なく、観測されていない。（高倉委員）

以上